

# 子宮頸がん検診を受診される方へ

## 子宮頸がんの現状

子宮頸がんの罹患は、わが国の女性のがんの中でも比較的多く、近年では増加傾向にあります。特に 20 歳から 30 歳代の若年層で急激に増えています。

## 検診の有効性

がん検診の目的は、早期発見により、そのがんで死亡する可能性を減少させることです。しかし、どのように優れた検査でも 100%の精度ではありません。がんは発生した時点から一定の大きさになるまでは検査では見つかりにくいがんがあります。また、本来生命に影響しない、微小でその後も進行がんにはならないがんが見つかる場合もあります。反対に、がんでないのに「要精密検査」と判定され、精密検査を行ってもがんが見つからずに結果的に不必要な精密検査や治療を受けなければならない場合も多くあります。

## 子宮頸がん検診を受診できない方

- ・生理中の方（細胞の採取が困難なため、お断りさせていただいています）
- ・最近 6 か月以内に次のような症状がある方は、医療機関を受診してください。
  - 不正性器出血（定期の生理以外の出血や、閉経後出血）のある方
  - 月経異常（過多月経や不規則月経等）のある方
  - 褐色帯下（褐色のおりもの）のある方
- ・妊娠の可能性がある方、または妊娠中の方（かかりつけの医療機関で受診してください）
- ・子宮がん等で医療機関において、治療中の方及び経過観察中の方
- ・性交渉の経験のない方は、子宮頸がん発生の大きな原因となる HPV（ヒトパピローマウイルス）の感染機会がありませんので、子宮頸がん検診の必要性は低いこと、痛みなどで細胞診ができない場合があることをご了承のうえ受診してください。

## 子宮頸がん検診の受診前にかかりつけ医に相談していただきたい方

- ・子宮の手術を受けた方（手術部位等により、検診を受けられない可能性があります）

## 子宮頸がん検診の受診の際の注意事項

- ・閉経後の方は子宮頸部の細胞量が少なく、十分な細胞が採取できずに判定不能となる場合があります。
- ・検診前日の膈内洗浄は細胞が洗い流されることがありますので避けてください。（入浴は差し支えありません）

- ・ 検診前日の性生活は避けてください。
- ・ 検診当日、体調の悪い方は検診を控えてください。
- ・ 当日は検診前に排尿を済ませてください。
- ・ 当日は、着脱しやすい服・靴で受診してください。
- ・ 子宮頸がん検診では、細胞を採取するため専用の採取器具（ブラシ等）を使用します。そのため、出血や痛みがあることがあります。出血は、おりものに血液が混じる程度で、多くの場合自然に止血します。検診後に出血が増えたり、長く続くようであれば医療機関（産婦人科）を受診してください。

## 検診結果について

- ・ 「要精密検査」という結果を受け取った場合は、必ず精密検査を受けてください。
- ・ 検診の結果が「精密検査不要」であったとしても、原因となる HPV（ヒトパピローマウイルス）にすでに感染していた場合や検診後に新たに感染した場合、今後子宮頸部の細胞に異常が生じ将来的に子宮頸がんが引き起こされる可能性はゼロではありません。また、子宮頸がんの中には急速に進行するがんもあります。2年に1回は検診を受けましょう。
- ・ 不正出血等気になる症状がある場合は、次の検診を待たずに医療機関（産婦人科）を受診してください。

## 精密検査の方法

コルポスコープ（拡大鏡のような器機）で、子宮頸部の粘膜表面を拡大して細かい部分を観察します。異常な部位が見つかれば、組織診によって組織を一部採取して悪性かどうかを判断します。また組織診（子宮頸部や膣部の細胞を専用のブラシで等で採取し顕微鏡で観察）の結果によっては、HPV 検査によって子宮頸がんの原因となる HPV の感染の有無を判定します。

## 精密検査が受けられる医療機関

- ・ 精密検査を受けられる医療機関については、三重県ホームページをご参照ください。
- ・ 受診可能かどうか、事前に病院へお問い合わせのうえ受診してください。

三重県ホームページ：『三重県がん検診精密検査医療機関登録制度について』

<https://www.pref.mie.lg.jp/KENKOT/HP/000118956.htm>



\* 検診は各医療機関と自治体が連携して行っています。検診結果や精密検査の結果については、厚生労働省等の指針・ガイドラインに基づき、精度管理等に必要な情報を関係機関等と共有します。